

医療機関ID (R3 病床機能報告)	14601304
(医療機関名)	クオラリハビリテーション病院

**【2025年に向けた計画】**

**医療機関記入欄**

**1 担う医療機能について**

(単位：床)

当初 (平成29年7月)	→	現在(令和3年7月)	→	2025年(令和7年7月)
高度急性期		0		0
急性期		60		60
回復期		58		60
慢性期		54		52
休棟		0		0
介護保険施設等		0		0

担う役割の方針	
がん	
脳卒中	○
心血管疾患	
糖尿病	○
精神疾患	
救急医療	○
災害医療	
離島・へき地医療	
周産期医療	
小児・小児救急医療	
在宅医療	○
その他	

**2 2018 (H30) 年以降の実績及び今後のスケジュール**

年度	取組内容	参考 (関連施策等)
2018年度		
2019年度		
2020年度		
2021年度		
2022年度		
2023年度		
2024年度		
2025年度	慢性期2床を回復期に転換。	



## 病床機能等の変更に関する報告書

令和6年11月14日

担当者名	有馬 誠吾	※ 連絡窓口担当者	
所属部署/役職	事務部/次長	電話番号 (内線番号)	0996-53-1704
メールアドレス	<a href="mailto:iji@goler.jp">iji@goler.jp</a>		(522)

### 1. 病院の概要

保険医療 機関コード	25, 1073, 7		
名称	クオラリハビリテーション病院		
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町船木2311番地6		
電話番号	0996-53-1704	FAX番号	0996-53-1788
開設者	医療法人クオラ 理事長 松下兼一		
管理者	医療法人クオラ 理事長 松下兼一		
診療科目	リハビリテーション科・整形外科・内科・消化器内科 循環器内科・眼科・泌尿器科(人工透析)・歯科		

### 2. 許可病床数

一 般	60 床	結 核	0 床
療 養	(医療)	112 床	精 神 0 床
	(介護)	0 床	そ の 他 0 床
感 染 症	0 床	合 計	172 床

### 3. 病棟構成

病棟の名称	病床の種別	病床数
2階東病棟	一般病棟入院基本料 (急性期一般入院料4)	33床
2階東病棟	地域包括ケア入院医療管理料1	27床
2・3階西病棟	療養病棟入院基本料 (療養病棟入院料1)	54床
3階東病棟	回復期リハビリテーション病棟入院料1	58床

#### 4. 変更内容

##### (1) 許可病床の状況

変更概要	許可病床に変更なし				変更予定日	
					令和7年4月1日	
変更前			➔	変更後		
一般病床	60	床		一般病床	60	床
療養病床	112	床		療養病床	112	床
合計	172	床		合計	172	床

##### (2) 医療機能の状況(病棟単位)

変更概要	慢性期機能病棟を54床から52床へ変更し、回復期機能病棟を58床から60床へ変更				変更予定日	
					令和7年4月1日	
変更前			➔	変更後		
病棟名	医療機能	病床数		病棟名	医療機能	病床数
2階東病棟	急性期	33 床		2階東病棟	急性期	33 床
2階東病棟	急性期	27 床		2階東病棟	急性期	27 床
2・3階西病棟	慢性期	54 床		2・3階西病棟	慢性期	52 床
3階東病棟	回復期	58 床		3階東病棟	回復期	60 床
合計	-	172 床		合計	-	172 床

##### (3) 診療報酬の届出状況

変更概要	療養病棟入院料1の算定病棟を54床から52床へ変更し、回復期リハビリテーション病棟入院料1の算定病棟を58床から60床へ変更				変更予定日	
					令和7年4月1日	
変更前			➔	変更後		
病棟名	入院基本料	病床数		病棟名	入院基本料	病床数
2階東病棟	急性期一般入院料4	33 床		2階東病棟	急性期一般入院料4	33 床
2階東病棟	地域包括ケア入院医療管理料1	27 床		2階東病棟	地域包括ケア入院医療管理料1	27 床
2・3階西病棟	療養病棟入院料1	54 床		2・3階西病棟	療養病棟入院料1	52 床
3階東病棟	回復期リハビリテーション病棟入院料1	58 床		3階東病棟	回復期リハビリテーション病棟入院料1	60 床
合計	-	172 床		合計	-	172 床

#### 5. 病床を変更する理由及び必要性

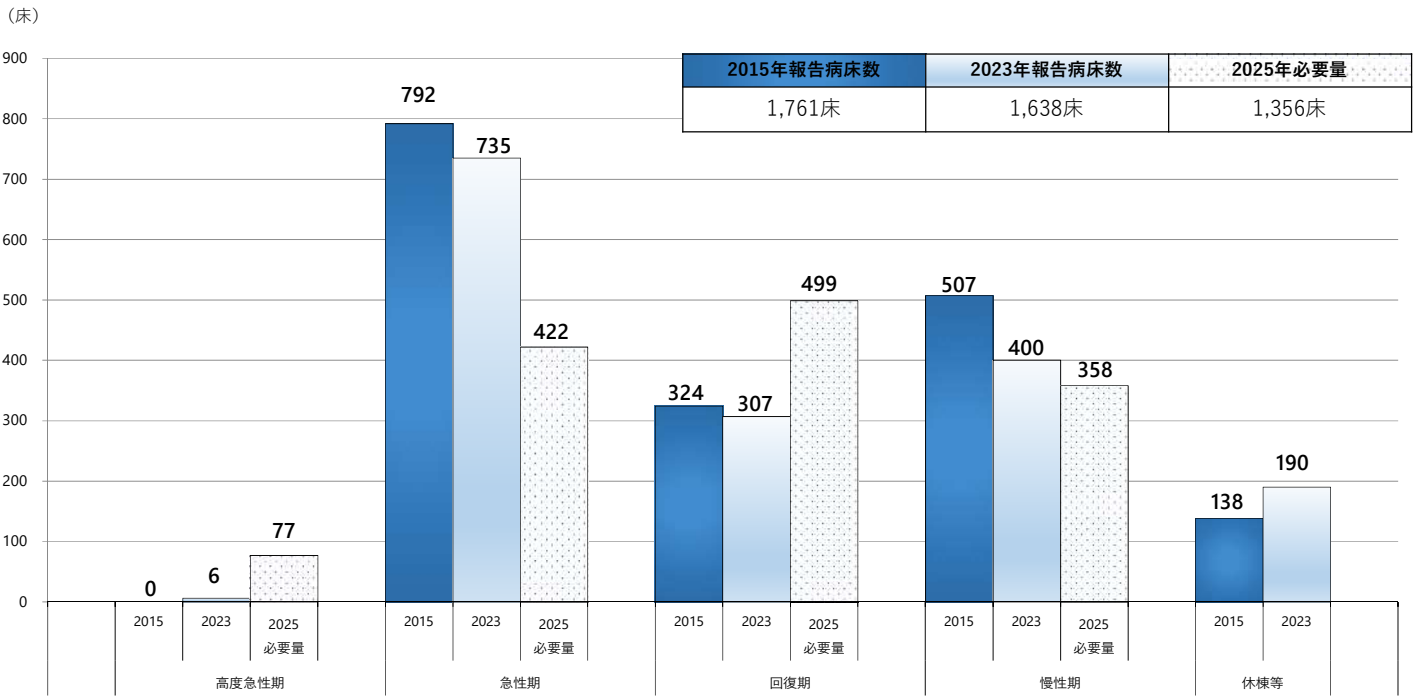
クオアリハビリテーション病院は「急性期」「回復期」「慢性期」の3つの機能を有するケアミックス病院として、平成25年より計172床(それまでは153床)にて運用しており、ここ数年のコロナ禍においても病床稼働率は平均92%を超え、地域医療を支える一定の責務は果たしているものと考えております。

しかしながら、2025年問題を間近に控え、特にさつま町の高齢化率は毎年上昇しているのが現状であり、また、鹿児島県の地域医療構想においては、川薩医療圏全体の病床必要数は現在よりも少ない数で事足りるとの見込みがなされています。

一方で、病床機能別に目を向けると、「急性期」と「慢性期」は飽和であるにもかかわらず、「回復期機能」については2025年以降も不足するという推測がされております。特に川薩医療圏においては、回復期リハビリテーション病棟を有している医療機関が少なく、さつま町に至っては当院のみという現状にあります。在宅医療を進めるにあたっては、より早期からリハビリテーションを提供できる体制及び急性期医療後のリハビリテーション患者を速やかに受け入れることのできる体制が必要であると考えます。このことから、当院としてはリハビリテーション病院としての機能を最大限、地域に還元すべきと判断し、僅か2床ではありますが、「慢性期」の病床を「回復期」の病床として機能変更を上申させて頂く運びとなりました。これにより、今後、より多くのリハビリテーションが必要な患者を早期に受け入れることが可能になり、在宅医療の推進にも繋がると考えております。

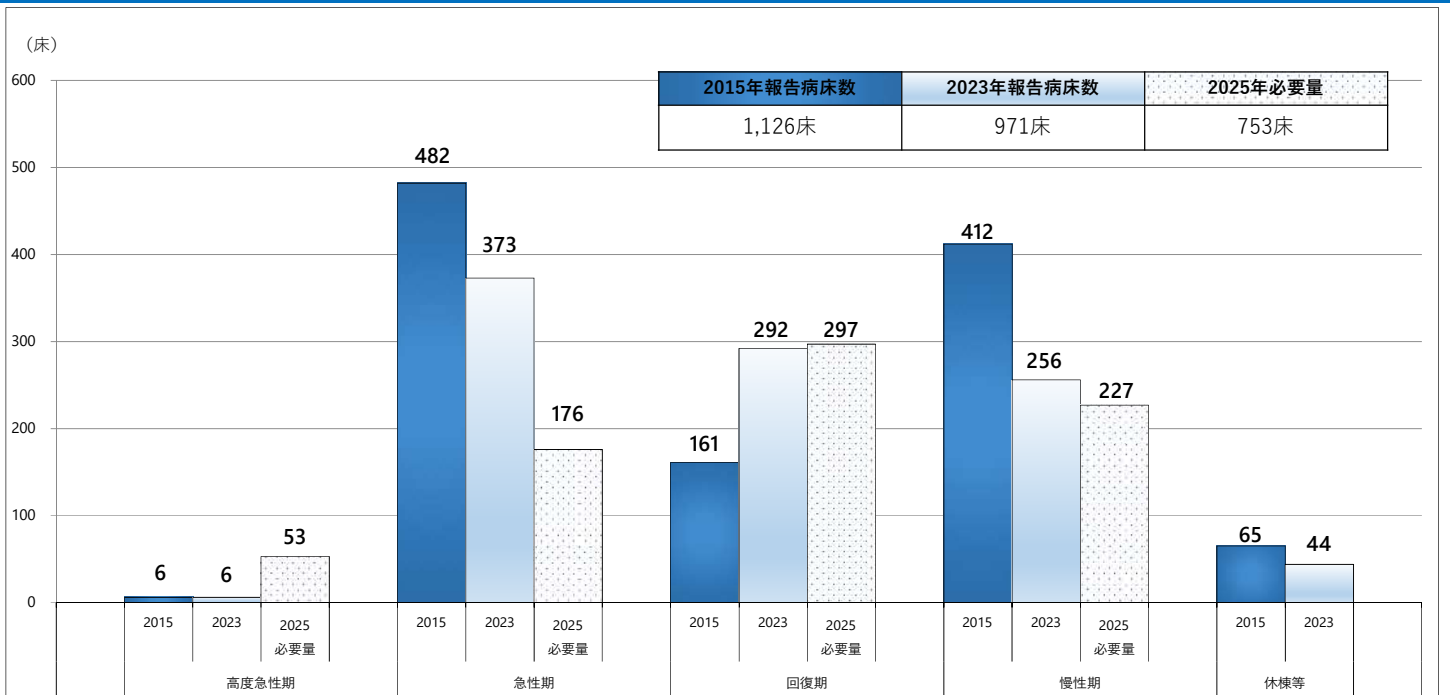
機能変更後におきましては、これまでと同等に地域に根付いた医療提供を継続させていただき所存です。何卒、この度の機能区分変更にご理解の程、宜しくお願ひ申し上げます。

### ③川薩医療圏 2015年病床数・2023年病床数・2025年必要量の比較



1

### ④出水医療圏 2015年病床数・2023年病床数・2025年必要量の比較



2